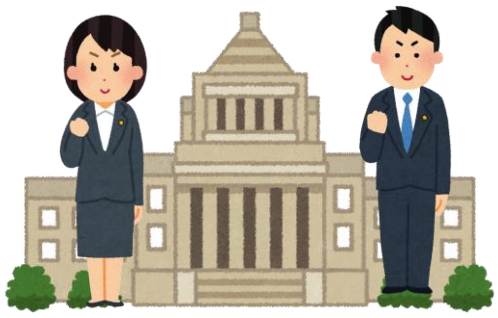
２０２４年12月5日
第90号

JR東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本
発行人 椀田優一
編集情宣担当
ホームページ
http://www.jreu-yokohama1.jp/

第２１５回特別国会召集

11月11日に第215回特別国会が召集されました。10月27日の衆議院議員選挙を受けて内閣総理大臣を指名するためのもので、当選した議員は登院すると議員記章をつけられ、国会内へ入ることができるようになります。各党が両議院議員総会を開催して方針を決定し、当日午後から衆参両院にて本会議が開会、両院で首班指名選挙（内閣総理大臣選出）をおこないます。なお、慣例として、内閣総理大臣は衆議院を解散できる権限を持つため、衆議院議員から選出されることになっています。

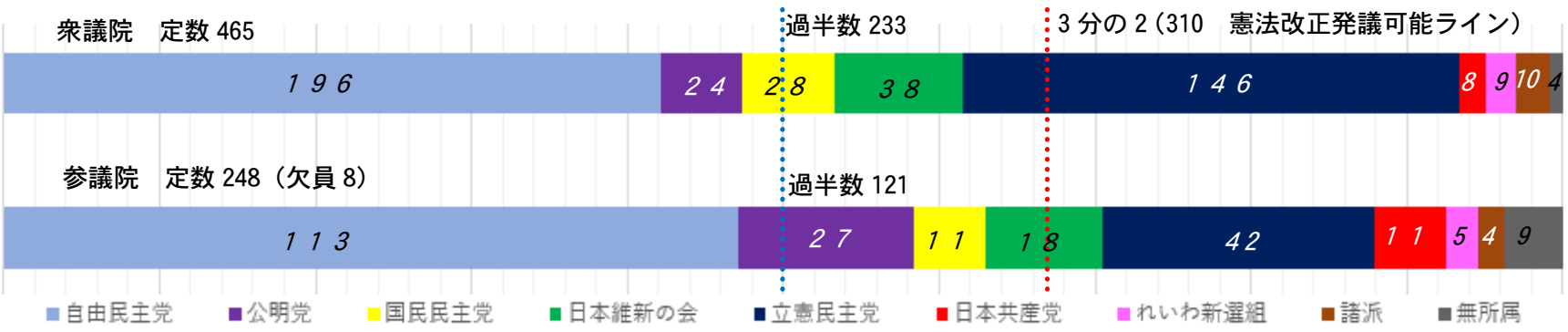


30年ぶりの決選投票で石破茂氏を指名

首班指名選挙は「有効投票数の過半数の指名」で決定します。現在の衆議院の定数は465名なので、全員投票した場合は233票以上が過半数です。今回は与党も過半数の議席がないため、30年ぶりに、上位２名による決選投票になりました。決選投票では過半数ではなく、「得票が多い方を指名」となり、過半数に届いていない221票の石破茂氏が、160票獲得した野田佳彦氏を降して内閣総理大臣に指名されました。他の政党代表などが書かれた無効票が84票あり、後述の理由もあり野党側はバラバラの印象を受ける結果となりました。なお、万が一決選投票で同数だった場合は、くじ引きになります。参議院においても同様に首班指名選挙が行われますが、結果が異なった場合は衆議院の指名が優先されます。

じっくり議論して決める国会が戻ってくる

内閣総理大臣に指名された石破首相の会見では「幅広く合意形成」という発言があり、翌日の日経新聞１面を飾りました。また朝日放送のネット記事には「強行採決ができない異例の国会」などと書かれていましたが、議論を尽くして合意形成をしてから採決に諮ることが本来の議会の姿です。これまで衆議院で与党が３分の２以上の議席をもっていたため、あらゆるものが与党だけで決めることができ、制度上では国会を非公開にすることすら可能になる状態でした。そうしたことが今後できなくなるため、国会は本来の姿に戻ります。「決まらない国会」と揶揄されることもありますが、議論を尽くすためになかなか決まらない、というのは本来の民主主義の姿です。

一方、野党からの視点で見ると、衆議院だけ見れば野党系で過半数をとれるため、内閣総理大臣を野党が取ることは可能です。しかしながら、参議院を見ると与党が過半数を持っているため、野党系の内閣が法案を可決しても、参議院では否決されることになり、参議院で可決のために与党案丸呑みの修正を受けることになります。このため、現時点で野党側が内閣総理大臣になると、ねじれ国会を運営せざるを得ないため、改選後も第一党を維持している自由民主党中心の首班指名をしておくのが得策と言えるかもしれません。

2024年11月11日時点での衆参両院の議席配分